

# Small CoRE Project 最終報告書

関金町における買い物の場の存続×多世代交流プロジェクト  
～関金地区振興協議会との連携による「ふれあい市場」の開催～

文責：学生メンバー一同&顧問教員

## 1：活動の狙いと経緯概要：学生団体「せきがねであそばいや」を結成して「再」スタート

- ・2023年度の鳥取大学の必修授業「地域調査プロジェクト」が発端で結成
- ：買い物困難者問題をテーマに2023年度から倉吉市関金町に関与した学生が、その後もこの実践的課題や地域に関与したいと考えた学生が有志で団体（「せきがねであそばいや」）を結成し、2024年4月から活動を再開。
  - 関金ストアの開所など関金の買い物環境に関する動向を考慮しつつ、地域活性化に関わる活動内容を検討。
  - 地域創造コースの3年生（6名）と4年生（1名）と顧問教員で活動。2024年4月～10月まで代表を務めた4回生の多忙な事情を踏まえ、11月からは3回生4名による共同代表制へ移行、現在は引き継ぎも含めて検討中。

## 2：活動実績と成果

### （1）学生団体同士の定期的な会議と現地での情報交換に基づいた2024年度イベントの方向性を検討

- ・2023年度とは異なる状況に合わせた（地元の方や関金ストアに配慮した）イベント内容を検討
  - \*学生の定例会議（5月～8月まで週1・60分）と現地で情報交換会（6/7・7/24）

### （2）鴨川中学校と連携したイベントの具体的な検討と作業を開始

- ・関金地区振興協議会等と調整し、大学生と地元の中学生が交流・地域学習を進め、2024年度のイベントを検討する運びへ
  - \*8月～9月、鴨川中学校の「総合」の授業時間に鳥大生と中学生が合同学習チームを4班つくり、10月のイベント内容を検討（野菜販売・ゲームコーナー・地元マップ作成・地元ツアーバス）



### （3）「関金ストア ふれあい市」を開催

- ・日時：2024年10月6日 10～12時  
→日本海新聞（2024年10月12日）に掲載

#### [主な活動内容]

##### ①15名の地元農家の野菜販売・PR

収益は各農家へ全額還元の非営利イベントを実施  
一当日の売上 96070円/13名の生産者へ還元



##### ②関金ストアへ来客を導線する仕組みの構築と実施

関金ストアのレシートと交換可能な豚汁と景品提供

→関金ストアの住民への周知と販売促進効果あり

##### ③多世代が遊べるようなゲームコーナーの実施

一水中コイン落としやモルックなどを実施

##### ④鴨中と鳥大生による関金観光マップ作成・配布

##### ⑤高齢者・大学生・中学生が同乗する観光ツアーバスの実施



#### (4) 「市長とはなしょいや」(倉吉市企画課)へ参加ー(3)の活動報告と今後の意見交換会を実施

・日時：11月7日 13時30～15時

＠倉吉市市役所大会議室（本庁舎3階）

・内容：倉吉市長と鳥大生（関金であそばいや）

が懇談会を実施し、活動報告や意見交換

→日本海新聞（11/12）・読売新聞（11/19）に掲載

→倉吉市HPに掲載（右写真）

\*出典（<https://www.city.kurayoshi.lg.jp/8743.htm>）

#### 鳥取大学地域学部の学生（令和6年11月7日）

##### 元気な自作づくり「市長どーはなしょいや」

L 鳥取大学地域学部の学生（令和6年11月7日）

L スケートボード爱好者（令和6年10月28日）

L 鴨川中学校3年生の生徒（令和6年10月23日）

L 梨生産者（令和6年3月23日）

L 移住者（令和6年2月11日）

L 倉吉市役所若手職員（令和5年10月31日）

L 鴨川中学校3年生の生徒（令和5年8月7日）

L 角取看護大学・鳥取短期大学の学生（令和5年6月8日）

L 自然がっこ旅をする木の保護者（令和4年8月24日）

L 鴨川中学校の生徒（令和4年8月2日）

鳥取大学地域学部の学生との「市長どーはなしょいや」を令和6年11月7日に開催しました。

令和6年夏から倉吉地区で良い地理環境の確保や交流の機会を目的に活動している学生たちが、これまでの取組の感想や地域の活性化などについて意見交換を行いました。

また、学生から、この活動等の資金での活動経費や今後の活動方針などについて活動報告がありました。活動を通じた資金の使いやすさや楽しさに脱帽して感動しがたい。地域のさらなる活性化や中学校との共同も継続したい。良い地域支援だけでなく開金全般の能力開発にも取り組みたいと話されました。

意見交換では、活動にあり公共交通での移動に制約があり、市に対して学生団体でも使いやすい制度があるといつて意見がきました。

また、これからの倉吉のまちづくりに対し、倉吉に住みたくても仕事や収入など暮らしのためのすべてが少ない、もっとまちが盛り上がっていくには、ここに住んでいる人ももっと倉吉をよくしたいと思ってほしい、といった声がありました。

市長は、こうして地域を盛り上げようという学生の活動に応えられるよう市の支援制度の見直しも回りたい、今後も声を聞かせていただきたい、それを活かせるよう努めたいと述べました。



#### (5) 中学生と大学生と地域のコラボがもたらしたインパクトー(3)と(4)へ関与する中で生まれた動き

##### I) 関金ストアふれあい市（3）④で作成した「関金観光マップ」のリメイク版作成と地域振興への活用

○当初案を参考に倉吉市がリメイク版（下図）を作成し、今後は観光等の地域振興の一環として活用予定

\*制作は鳥大生と鴨中生という記載は残り、倉吉市行政は協力という表記



##### II) 市長と学生懇談会（4）で学生が意見した内容を反映させた制度創設

○倉吉市では、(4)での学生の活動や意見を受け、今後も上述の活動・事業での活用を期待できる新たな学生団体向けの活動支援補助金制度を創設予定（3月議会の議決次第）

⇒将来的な活動の資金調達の回路が、市の協力により、大学（スモールコアPJ）だけに依存しない体制が創造

#### III) その他

○鴨川中学校内で授業に参加した中学生へアンケートを実施し、教育効果などを確認

○「せきがねであそばいや」に関与した鳥大生の一部は、関連テーマや地域の事例で卒業研究などに着手

⇒大学生含む地域外部の協力者の動きを募りながら、地域内部の関係者で自走する動きも涵養する一手に着手